

# 地域に根ざすアラスカ大学フェアバンクス校の 教員養成カリキュラムと教師教育

## — へき地校とへき地地域に定着するための大学の教育課程分析 —

川 前 あゆみ  
(北海道教育大学釧路校)

### Community-Based Teacher Training Curriculum and Teacher Education at the University of Alaska Fairbanks — An Analysis of University Curriculum for Integrating into Remote Schools and Communities —

Ayumi KAWAMAE

(Hokkaido University of Education Kushiro Campus)

#### 概 要

本稿の課題は、アラスカにおける教員不足の解消とへき地地域に定着する教員養成を目指した、アラスカ大学フェアバンクス校の地域に根ざす教員養成プログラムとカリキュラム構造をとらえることである。また広域性を有するアラスカ州の地域全体がへき地性を伴う中で、先住民理解教育やへき地教育理解等のへき地地域に赴任する教師に求められる資質を大学の教育課程からとらえることを目的とした。

#### 1. 課題と方法—アラスカ大学フェアバンクス校 の位置づけと先進性

本稿の課題は、アメリカの中でも広大な過疎地域を抱えたアラスカ州において、アラスカ大学フェアバンクス校(University of Alaska Fairbanks=UAF)の教師不足対策とへき地校に対応した教員養成課程の特性を明らかにすることである。アラスカ大学フェアバンクス校では、教育委員会と連携して、教師不足の対策とへき地校の教員確保に向けて、大学の教育課程も特色あるカリキュラムを設定している。このアラスカ大学フェアバンクス校の教員養成課程と特色あるプログラムをとらえることで、先駆的なへき地の教員養成の在り方をとらえることができる。

アメリカは全米で教員不足の状況にあるが、アラスカ州は日本の国土面積の4倍の広大なへき地地域を有し、これらの地域では極めて教員が不足している。またアラスカ州は元々先住民の地域に開拓を進め、現在でも人口の25%が先住民である。その中でアラスカ大学フェアバンクス校は先住民を理解し、へき地に定着できる教員養成課程を歴史的にも作ってきた(注1)。アラスカ州全体もへき地教育の先進地域であるが、さらにアラスカ大学フェアバンクス校も、国際的に見て先住民理解とへき地地域に根ざす教師教育に取り組んでいる先進校である。

教師不足問題は、特に辺境地に位置するアラスカ州では

教師不足の改善が喫緊の課題である。アラスカ州では州内居住のアラスカ州教員免許保持者約14,000人に対して実際に教職に就いているのは約7,500人であり、過去6年間で州外からの採用者数が約2倍になったとも言われている。そのような状況の中でも、アラスカ州で勤務する教師は、州外で教員免許を取得した教師よりもアラスカ州で教員免許を取得した教師の方が、アラスカ州内のへき地校の定着度が高い。

他方で、アメリカは終身雇用ではなく、アラスカ州でも基本的に定年制度がない。退職時期は個人の判断に委ねられているため、退職予定者数は毎年流動的である。これまでアラスカ州の教員給与は、米国全50州の中でも最上位の雇用水準にあったが、2024年現在は上位に位置しながらも10位前後に低下したことも明らかになっている(注2)。教員不足の背景には、州議会の決定する予算次第で教員確保策に影響することが一つの誘因とされている。そのため、財政が厳しい中で、アラスカ州に長く留まれる教師を養成・採用することが課題となっており、教師の職務内容・給与等の待遇改善による優秀な教師の確保も重要な施策の一つとなっているのが現状である。

これまでのアラスカ州の代表的な先行研究では、牛渡淳・牛渡亮がアラスカ州における先住民のための教員スタンダード及びガイドラインの内容と構造から明らかにした(注3)。このような先住民理解教育を柱にしたスタンダー

ドは、極めて世界的にも希有であり、これが教師の先住民理解を促していると言える。

また玉井・川前も、アラスカの多文化理解教育の施策と共生社会実現のための教育をアラスカスタンダード並びにガイドラインからとらえると共に、教育専門機関の連携による科学的な先住民理解のための教材開発が、学校・地域の教育力と教師の指導力を高める役割を果たすことを明らかにした(注4)。同時に川前・玉井・二宮編著『アラスカと北海道のへき地教育』では、アラスカのへき地教育では、地域素材を活かした教材開発と地域探究学習を基盤にした教科横断型カリキュラムを推進していることを明らかにした。この地域を生かしたカリキュラムでは、学区教育委員会や大学の専門分野教員が連携しながら教材開発と実践に取り組んでいる意義を明らかにした(注5)。このような地域教材開発も教師が地域において、教育活動を推進しやすい条件となる。その結果教師がへき地校で定着しやすい条件となる。

川前・小野らは、アラスカ大学が先駆的に取り組んできたへき地に定着できる教員養成カリキュラムの特性を抽出し、とりわけその教員養成カリキュラムが発展していくアラスカ大学フェアバンクス校の教員養成課程の変遷を明らかにした(注6)。また小野(注7)はアラスカ州で活躍できる教員免許制度の特性を取りあげ、さらに玉井(注8)はアラスカ大学のアドミッションポリシーとして、先住民の入試制度をとらえた。これらは教師不足を軽減する取組として様々なタイプの大学入学の機会を保障する条件となっており、へき地に根ざした教員養成プログラムの一つの特性を明らかにしている。

さらに本稿では、これまでの先行研究を踏まえ、アラスカ大学フェアバンクス校の教員養成カリキュラムから、へき地地域に根ざす教員養成プログラムと教員養成課程の特徴をとらえたい。

本稿の課題は、アラスカ大学フェアバンクス校(以下UAFと称す)が、現在いくつもの教員養成プログラムを進展させている中で、まず、第1にUAFの教員養成カリキュラムの全体像を明らかにすることである。第2には、その全体的な枠組みの中に位置づいている、へき地教育カリキュラムをとらえることである。とりわけ本稿ではUAF発行の『University of Alaska Fairbanks 2025-2026 Academic Catalog』(注9)を参照しつつ、同教育学部の教員養成カリキュラムを中心にとらえたい。

## 2. アラスカ大学フェアバンクス校の地域的特性と大学の地域教育に果たす役割

### (1) コミュニティキャンパスと遠隔地域コミュニティの関係性にみるUAFの役割

アラスカ州で人口が最も多いアンカレッジには29万人が居住しており、そこにはアラスカ大学アンカレッジ校がある。人口が2番目に多いフェアバンクスには人口約9万5000人

が居住している。そのフェアバンクスに所在するアラスカ大学フェアバンクス校(以下、UAF)は9.1km<sup>2</sup>キロメートルの広大な敷地にメインキャンパスを有するほか、コミュニティキャンパスがフェアバンクスのダウンタウン・ベセル・ディリングラム・コッツェビュー・ノーム等の各地域に設置されている。これらのコミュニティキャンパスは、大学の役割としてアラスカ州全域に教育機会を提供する位置づけで運営され、このコミュニティキャンパスを多く有することにUAFの特色がある。

コミュニティキャンパスの一つであるブリストルベイ・キャンパスは、UAFキャンパスから約915km離れた地域にある32の農村コミュニティを支援している。そのキャンパスのアウトリーチセンターは、アリューシャン列島・アラスカ半島南部・シユマギン島とプリビロフ島の12のコミュニティを支援する。先住民の居住率も高く、先住民等の学生数は、各学期500人から800人が在籍している。

キャンパスでは、一般教養の準学士号(文系)のほか、学士課程には初等教育等が含まれている。さらに修士課程は農村(資源)開発と教育分野があり、授業は、遠隔授業(インターネット音声会議やビデオ会議システム)と、従来の講師による直接指導によって提供される。またチュクチキャンパスは、北極圏から北に26マイル離れたチュクチ海沿岸に位置し、コッツビューと10の村落に拠点を置いている。このチュクチキャンパスでは、教育学士号取得につながるコースがキャンパスの講師によって提供され、先住民研究学部の音声会議システムとライブインターネット指導システムを利活用している。このように広域性のあるアラスカ州では市街地にあるフェアバンクス校だけではなく、遠隔地にあるコミュニティキャンパスを拠点にしながら教育・研究・研修活動に重きを置いているのがフェアバンクス校の大きな特色と言える。

1963年以来、UAFはパラボラアンテナによる衛星回線を使って、アラスカ州および世界中の学生に遠隔教育コースとプログラムを提供している。この「e-Campus」は、遠隔教育学習センターの一部であり、65分野にわたる500以上のオンラインコースと、完全オンラインの学位・資格を提供しており、学生の教育機会を増やし、教室に通うことなく教育活動を深め学位を取得する支援体制を充実させている。このようなシステムを使って、へき地や先住民コミュニティにおいても、大学進学機会を広げるなど、高等教育の拡充施策を推進している。このような施策もへき地に対応した特色ある大学の教育活動である。

### (2) 広域性を踏まえた大学入学要件と入学資格の適格要件拡充にみる特色

入学要件として準学士課程/資格取得課程への入学には、申請者は次の3つのうちのどれかの条件を満たすことが必要要件である。入学要件は、①18歳以上、②高校卒業資格保有、または③一般教育開発(GED)修了証書を有すること、である。

また高卒だけでなく、入学資格の適格性については、①編入生、②自宅学習生、③高校生、④アラスカ・アドバンテージ・プログラム、⑤ミドルカレッジ生など様々な社会的環境・立場にある入学志願者に門戸を広げている。大学入学生が18歳に限らないのは、アメリカ全体の特徴であるが、さらにアラスカでは意識的に多様な職業を有する人の大学進学を推進している。その理由は、広域であること、経済的に厳しい環境にある高校生が多いことが理由になっている。

①編入生：編入生は、以前の認定教育機関を良好な状態で退学した場合、入学資格がある。州の認定を受けていないか、または地域認定を受けていない高等教育機関に在籍していた場合、入学資格は個別に決定される。

②自宅学習生：自宅学習生は、18歳以上で、GED（一般教育修了検定）を保有し、州立通信教育課程を修了して高校卒業資格を取得している場合、または入学担当ディレクターの承認を得ている場合、準学士課程または資格取得のための課程に入学できる。

③高校生：高校生は、UAFの授業を受講できる。入学オプションには、高等学校入学、アラスカ・アドバンテージ・プログラム、ノーススター・カレッジがあり、それぞれ特定の登録要件はあるが、非学位学生として入学できる。

④アラスカ・アドバンテージ・プログラム：このプログラムは、二重登録の学生に、UAFの高品質なオンラインコースを提供するユニークなバーチャル・ミドルカレッジの機会を提供するプログラムである。このプログラムは、高校生向けの包括的な学生サポートも提供している。

⑤ノーススター・カレッジ：このカレッジは、UAFとフェアバンクス・ノーススター・ボロー学区（以下、FNSBSD）が提携するミドルカレッジであり、参加学生は学期ごとに7～15単位の大学単位を取得できる。これらの単位はFNSBSDの卒業要件にも適用され、興味のある学生は、FNSBSDを通じて直接申請する。参加資格のある学生は抽選で選ばれる。

このようにUAFでは、アラスカ州全体が広域性・へき地性を有する中でコミュニティキャンパスを複数設け、どの地域にも高等教育機関としての教育の役割を果たすように運営されていることが大きな特色である。また、入学志願条件には年齢条件のほか、高校に在籍しながら大学授業を受講できるシステムや編入制度システム、自宅学習生など、学区教育委員会とも連携しながら、大学入学機会の門戸をへき地や高校生にも広げている。

高校生向けに開設している大学講義の受講機会は、魅力ある教員の育成に向けた長期的な施策である。また後述のように、UAFから遠隔地に暮らす学生には、学修のために大学付近に転居せずとも遠隔講義や遠隔指導が受けられ

るカリキュラムを提供している。これらは広域性・へき地性に配慮した大学の役割として、UAFの特色となっている。

### 3. アラスカ大学フェアバンクス校教員養成カリキュラムの構成と初等教育学科の基本理念

#### (1) UAF教育学部の学士号取得資格とカリキュラム構成

UAF教育学部では、学位・教員免許について以下のプログラムを設けている。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等教育学士 (B.A.)</li> <li>・初等教育免許 (学士号取得後)</li> <li>・K-12美術免許 (学士号取得後)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中等教育免許 (学士号取得後)</li> <li>・中等教育 (内容領域を含む) 学士 (B.A.)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育資格 (学士号取得後)</li> <li>・音楽教育学士 (B.A.) (教養学部)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンセリング学修士 (M.Ed.) ※ (※カウンセリング学修士プログラムは、カウンセリングおよび関連教育プログラム認定委員会から認定を受けている。)</li> </ul>

この教育プログラムは、アラスカ州教育委員会の基準に準拠し、教員養成認定評議会の認定を受けている。またアラスカ州教育・幼児教育省の認可を受けており、アラスカ州の小学校・中学校教員、スクールカウンセラー、特別支援教育教員の複数免許取得を学生に推奨している。

最初に免許種の全体的特性をとらえておく。初等教育学士 (B.A.) は、アラスカ州および全米で需要の高い教職に就くための実践的な学位であり、1年間 (10ヶ月間) のインターンシップを含む数多くのフィールドワーク経験の中に幅広い分野の講義科目を履修することで学修内容の理論と実践を補完している。主専攻・副専攻を統合した学位取得要件は、アラスカの民族・文化・言語・地理的要因を認識・尊重し、それらを発展させる学生を育成するように設計されている。初等教育学士 (B.A.) を修了すれば、主専攻と副専攻の両方の要件を満たすようにプログラム設計されている。

初等教育学士 (BA) の学位プログラムは、教員養成認定評議会 (CAEP) 基準や州間教員評価支援コンソーシアム (InTASC) 基準を含む国家基準に照らして評価されている。授業・フィールドワーク・インターンシップは、アラスカ州内のどこでも修了でき、コースワークはすべて遠隔で受講するか、またはアンカレッジとフェアバンクスでの対面授業を含む複数の受講方法を組み合わせて履修できるシステムになっている。学生はどの地域に居住していても受講できるシステムを設けている点も特徴的である。

#### (2) 初等教育学科の基本理念とへき地性を踏まえたカリキュラムの特徴

ここでは、特にUAFの初等教育学科に焦点化し、その特徴を抽出していく。まず、UAF教育学部の学科概要では、

次のように明文化されている。

教育学部は、アラスカ州全域、そして他の州や他国からの学生を、アラスカの都市部やへき地で働き、多文化およびマイノリティ（特にアラスカ先住民族）の学生と交流できるよう育成する。アラスカ州のへき地および先住民族の教育機会を向上させるため、教員に教育技術と知識を積極的かつ豊富に活用してもらうとともに、州内のほとんどの地域の学生に対して教育学部のすべてのプログラムを提供する。

教育学部では、初等教育と中等教育の学士号を取得できるほか、初等教育、中等教育、カウンセリング、特別支援教育の分野で学士号取得後の修士課程プログラムも提供している。関係するコースの受講は、クスコクウィム・プリストルベイ・チュクチ・ノースウエストの各キャンパス、そしてフェアバンクス校にて対面授業と遠隔授業で受講でき、教員は、異文化研究、カリキュラムと指導法、言語とリテラシー、そして小規模なへき地学校に関する研究に取り組んでいる。これが教育課程の特色である。

学科概要に明文化されている「アラスカ州のへき地および先住民族の教育機会を向上させるため、～中略～、州内のほとんどの地域の学生に対して教育学部のすべてのプログラムを提供する」ことが、へき地に対応した教育課程の特色を示している。UAFでは特に遠隔地域および先住民族の教育機会に力点を置いたカリキュラムを古くから用意している。とりわけへき地性が極めて高い遠隔地域や、それらの地域で暮らす先住民族の教育機会の向上に努めてきたことに特徴がある。

次に、教育学部での学位取得要件についてとらえると、初等教育学士号取得のための最低履修単位数は122単位である。学位取得要件は、小学校レベルでの効果的な指導に必要な幅広い学際的な内容を提供している。また、実際の教室・学校・地域社会の文脈において、地域を基盤にした理論と実践を結びつける機会を保障している。

この学位は4つの主要な要件で構成されている。

1. 指定されたUAF一般教育要件に関する科目領域の授業
2. 小学校レベルでの効果的な指導に重要な分野に関する追加の科目領域の授業
3. 学校および地域社会における教育科目とフィールドワークの統合
4. メンター教員との1年間のキャップストーン学校インターンシップ（キャップストーンとは、専門的集大成の実践プロジェクト）

初等教育学位取得要件には上記の4つの要件が課されており、学生は履修計画を綿密に立てる必要がある。次の表「初等教育（K-8）学士号」（表1）は、履修科目一覧である。

表1 初等教育学位取得要件に関するカリキュラム履修科目一覧

コード	科目名	単位
<b>大学共通一般科目</b>		
大学共通の一般科目の履修を完了。		
<b>教育系一般科目</b>		
教育系の一般科目の履修を完了。以下の教育系の一般科目から選択して完了。		
ART/MUS/FLPA F200X または ANS/FLPA F161X または ANS F202X または ANS/MUS/ACNS F223X	アートの探求  アラスカ・ネイティブ・パフォーマンス入門 アラスカ先住民族パフォーマンスの美的真価  アラスカ先住民族の音楽	3  3 3  3
BIOL F100X または BIOL F103X または BIOL F104X	人間生態学 生態学と社会 アラスカの自然史	4 4 4
CHEM F100X または CHEM F103X または PHYS F102X または PHYS F115X	複雑なシステムにおける化学 一般化学入門  エネルギーと社会  物理科学	4 4 4 4
ENGL F270X	創造的なライティング入門	3
HIST F100X または HIST F102X	現代世界史 1500年以降の西洋文明	3 3
MATH F122X または MATH F151X	入門微積分学の基礎と応用 微積分学のための大学代数	3 4
H または SS 選択科目: 次のいずれか1つを完了。 (注1) 1言語 3-5単位		
ANL F255X	アラスカ先住民の言語入門	3
ANTH F100X	個人、社会、文化	3
HIST F132X	米国の歴史II	3
SOC F101X	社会学入門	3
<b>初等教育（K8）プログラム関連科目</b>		
学士号取得関連科目の履修を完了。		
<b>算数関連科目</b>		
MATH F211	小学校算数	3
MATH F212	小学校算数II	3
<b>科学関連科目</b>		
以下から1科目選択して完了。		
ATM F101X	アラスカの天気と気候	4
GEOS F101X	ダイナミックな地球	4
GEOS F111X	地球と環境: 自然地理学の要素	4
GEOS F120X	氷河、地震、火山: 過去、現在、未来	4
MSL F111X	海洋	4

社会科学関連科目		
ED/PSY F245	児童の発達	3
HIST F131	米国の歴史	3
PS F101X	アメリカ政府と政治入門	3
以下から1科目選択して完了。		
ANS F242X	アラスカ先住民族の文化	3
ANTH F242	アラスカ先住民族の文化	3
HIST F115	アラスカ 土地と人々	3
HIST F461	アラスカの歴史	3
人文科学関連科目		
ED/LING F100	言語、教育、言語学	3
または LING F101X	言語の性質	3
教育学関連科目		
ED F439	初等学級における多言語学習者の支援	3
ED F110	21世紀の教師になろう	1
ED F201	教育入門	3
ED F206	地域と芸術に根ざした指導の主要実践	3
ED F329	テクノロジーを使った教育	3
ED F330	学習のアセスメント	3
ED F344	識字能力向上の基礎	3
EDSE F316	小学校教師のための特別支援教育入門	3
EDSE F320	障害児への適切な指導	3
次のいずれか1つを完了。		
ED/ANS F420	アラスカ先住民教育	3
ED/ANS F461	先住民の知の方法	3
専門インターンシップと関連科目		
1 学期		
ED F411	読解、作文、国語科: 指導法とカリキュラム開発	3
ED F412	社会科と国語科の統合: 指導法とカリキュラム開発	3
ED F414	初等学級の美術、音楽、演劇	3
ED F466	インターンシップと協働的な教育実習 (注2)	3
ED F467	スタンダードの統合 I (学級経営 コミュニケーションとコラボレーション I)	2
ED F478	算数科の指導方法とカリキュラム開発	3
2 学期		
ED F417	小学校教師のために身体活動と健康教育	3
ED F468	インターンシップと教育実習	4
ED F469	スタンダードの統合 II (学級経営 コミュニケーションとコラボレーション II)	2
ED F476	識字能力発達の評価	1
ED F479	理科の指導法とカリキュラム開発	3

(注1) 学生は UAF 教育学部アドバイザーに要相談

(注2) これにより学士号コース修了要件を満たす

各科目には番号が付与されているが、例えば100の位の数字で始まるコースの最初の数字は、学生が通常そのコースを受講する学年次を示している。

1年生と2年生は、3～4年生向けの上級レベル (F300 およびF400) のコースを受講する場合は、そのコースが提供される分野における高度な研究を行うのに十分な準備と知識があることが条件となる。一般教養科目には、科目番号末尾にXが付されている。

また、1単位時間当たりの学習量については、1時間の授業または教員による指導と、毎週最低2時間の授業外学習を約15週間要する。さらに、非同期授業 (オンデマンド) の場合、1単位当たり最低3時間の授業を約15週間、または同等の学習量を要する期間の学修活動を要する。内容的には実践を伴うものとし、実験・実習・インターンシップ・スタジオワーク等の学業活動を含み、これらの学業活動に少なくとも同等量の作業を行うことが課されている。実験授業では、1単位あたり最低2,400分の理科実験 (1単位あたり週3時間)、または最低1,600分の理科以外の実験 (1単位あたり週2時間) に加え、授業外での学習または準備として800分 (週1時間) が必要となっている。

このように単位時間には、通常の学習に加えて、実践的なワーク活動を含めた内容で単位時間を構成している。

#### 4. アラスカ大学のインターンシップ指導の特徴とへき地実習による教職資質の育成

##### (1) へき地理解を含めたインターンシップ指導の特徴と遠隔地域の実習指導方法

アメリカ合衆国の教員養成・免許制度については、養成期間年限は大学で4年間 (一部5年)、資格試験は有りとし、資格試験の方法・内容は州により異なるとしている (注10)。教員免許等は州が免許状を発行し、免許状の種類は教育段階別 (初等教員免許状、中等教員免許状など) になっており、すべての州において更新制である。そして、教育実習の義務づけ期間は州により異なるが一般的に養成段階の最終年次で実施される。

UAFの履修科目の中には、「へき地教育の理解につながる実習を含むフィールド経験科目」(表2) が含まれる。これらは学年進行で展開されるが、特に学部最終年次にあたる4年生の「インターンシップイヤー」では約1年 (10ヶ月間) の長期間にわたり実習校に勤務しながら、実習先から遠隔で講義を受けて省察の議論をし、さらにレポートを作成することが同時進行で行われるカリキュラムになっている。実習科目担当教員が実習校に実際に巡回訪問し指導する場合もある。

このように実習生は対面もしくはオンライン上でアドバイスを受けながら実習内容を充実させていく理論と実践の往還的な指導サイクルとすることに特徴がある。実習と各教科指導法とも連動させた抱き合わせ指導になっており、すべての科目は現場に身を置きながら、週に1日程度 (半

日ずつ2回もあり) 大学に登校するかオンライン講義を受ける。

ここでは、UAF教育学部における初等教育(K-8) 学士号コースの体系的な実践経験につながる科目の特徴をとらえておく。まずICTの活用力は教師の資質・能力として重要な課題であるため、実習生は実習を含めフィールド科目において、ICT機器の利活用経験を実践する。教育実習生は、これらの実際の教室でのICT利活用において、児童生徒支援や授業場面で利用の技術経験を積むこととされている。

例えば、教師によるスマートボード・インタラクティブホワイトボード・生徒によるChromebookやiPadの使用・家庭とのコミュニケーションや成績・出欠記録用アプリの使用、その他の学級専用ツールなどを使用する。ほとんどのアラスカの学校では、Google Classroom・Google Drive・Google Forms・Jam boardを含むG-Suiteアプリケーションを活用し、多くの教室ではNearpod・Kahoot・Flip Grid・Seesawのような学習プラットフォームを活用する。

「へき地教育のより深い理解につながる実習を含むフィールド経験科目」(表2) では、学年ごとに学習内容が幅広くインターンシップ年次に合わせて方法論の関連科目も設定され、具体的に実践が深まる構成になっている。そのフィールド科目の実践の場所は「公立小学校の教室」になっている。

表2 「へき地教育のより深い理解につながる実習を含むフィールド経験科目」

対象学年	コース番号	フィールドワーク時間	コース名
1年	ED110(1単位)	3.5	21世紀の教師になろう
2年	ED201(3単位)	20	教育入門
2年	ED206(3単位)	15	地域と芸術に根ざした指導の主要実践
3年	ED344(3単位)	15	識字能力向上の基礎
4年	ANS420(3単位)	10	アラスカ先住民族教育

※主に関連する科目を抽出しコース名は筆者翻訳

例えば、1年次の学生は入門コースとして「21世紀の教師になろう」(ED110) を履修する際に、メンターと相談しながら、インターンシップイヤー学生(インターン学生)の実習校に配属される。入門コース科目では、1年生はインターン学生の学級を手伝いながら、インターン学生と共に活動し教職適性の適否を見極めることが、1年生の履修科目の目標になる。インターン学生にとっては学びながら1年生に伝える役割を持つことになり、相互に学び合う教育活動を行う関係となる。

2年次に履修できる「教育入門」(ED201) もフィールドワーク時間を20時間とし、実践現場に赴き教職への適否を実習生自身が見極める機会となっている。各コースプロ

グラムの履修期間中、実習生は教師や専門家を観察することから始め、生徒個人や少人数のグループをサポートすること、義務付けられたカリキュラムや自分で考案した授業単元を教えることを経て、最終的には教室の責任者(教師)としての実習内容に移行していく。

表3 「初等インターンシップイヤー：秋学期」  
(4年生前半対象)

コース名	ED 411(3単位) 「読解、作文、国語科：指導法とカリキュラム開発」 ED 412W(3単位) 「社会科と国語科の統合：指導法とカリキュラム開発」 ED 414(3単位) 「初等学級の美術、音楽、演劇」 ED 466(3単位) 「インターンシップと協働的な教育実習」 ED 467(2単位) 「スタンダードの統合 I (学級経営のコミュニケーションとコラボレーション I)」 ED 478/678(3単位) 「算数科の指導法とカリキュラム開発」
各科目フィールドワークの時間=大学構内で529時間、大学構外で572時間	
各科目フィールドワークの場所=小学校1年生から6年生の公立学校の教室	

(注) 主に関連する科目を抽出しコース名は筆者翻訳

インターンシップイヤー(4年生対象)には大別して秋学期と春学期があり、「初等インターンシップイヤー：秋学期」(表3) は秋学期に履修が求められるコースワークになっている。1年間の長期にわたる実習期間の前半期の「初等インターンシップ年次：秋学期」のフィールドワークの実習目標は、実際の学校現場に身を置き、実習生(インターン学生)に、カリキュラム・教育法・事象の背景について学ぶ機会を提供することである。インターン学生は、毎週およそ4日を教室で過ごし、1日(あるいは半日を2回)を大学の授業及び省察活動に費やす。

実習生はコース内容に関連する以下の5つの指導方法を学修する。

1つ目は、コース内容に基づいて設定される1~2回の教壇実習授業の準備と実践である。2つ目は、算数科指導(ED478)(表3)での5回の授業計画と指導上の課題解決の実践を行うこと、及び地域の子どもの現状に根ざした計画策定と実践活動を行うことである。3つ目は、社会科と国語科の教科横断型の統合指導(ED412)を実践することである。教科横断型指導は、計画策定から行い、地域に根ざした社会科・国語科の統合単元の5回の授業指導を行うことである。4つ目は、国語科と芸術の教科横断型の統合的指導(ED411)で、読解・作文・単語学習・自主読書・

音読計画の指導を行うことである。5つ目は、インターン学生は、メンター教師や専門家と協力して、教室での全指導を行うことである。その中には、クラス活動・小グループ指導・保護者面談の援助なども含まれる。ただし勤務地の状況は、規模・場所・学年レベルや児童の人口構成等において大きく異なる。

以上の実習内容を学修するため、実習生は、都市部(Fairbanks, Anchorage, Mat-Su, Juneau, Kenai) やアラスカ州全体の多くのへき地コミュニティに配属される。

前半の秋学期が終了後もインターン学生は秋学期に活動した同様の活動を、後半の春学期も継続して活動できるようにしている。次に、インターンシップイヤー後半にあたる春学期のコース状況とその特徴をとらえたい(表4)。

表4 「初等インターンシップイヤー：春学期」  
(4年生後半対象)

コース名	ED 468 (4単位) 「インターンシップと教育実習」 ED 469 (2単位) 「スタンダードの統合Ⅱ(学級経営のコミュニケーションとコラボレーションⅡ)」 ED 417 (3単位) 「小学校教師のための身体活動と健康教育」 ED 476 (1単位) 「識字能力発達の評価」 ED 479/688 (3単位) 「理科の指導法とカリキュラム開発」
フィールドワークの時間=大学構内で535時間、大学構外で524時間	
フィールドワークの場所=小学校1年生から6年生の公立学校の教室	

(注) 主に関連する科目を抽出しコース名は筆者翻訳

表4のようにインターン学生は、インターンシップイヤーの後半期である春学期を通して、UAFとアラスカスタンダード(Alaska Standard)に合致するインターンシップを継続する。インターン学生はコース内容を基礎にして、以下の4つの、教員としての実習経験を積み上げていく。

1つ目は、3週間フルタイム実習の計画化と実践である。2つ目は、フルタイム実習は理科指導法(ED479)(表4)の履修期間を含むことである。3つ目は、健康教育授業および体育教育授業(ED417)の計画化と指導を各1回ずつ行うことである。4つ目は、健康教育および体育教育の授業計画化と実践を行うことである。各インターン学生は、メンター教師および学校区担当の教師(可能な場合)と協働して、計画を実行する。

以上の観点と内容を実践するため、このプログラムの実習生は、都市部(Fairbanks, Anchorage, Mat-Su, Juneau, Kenai)に加えて多くのアラスカ州全体のへき地コミュニティに配属される。

このインターンシップイヤーは秋学期と春学期の2期の連続性の中で1年にわたり長期的な教育実習となる。その長期の教育実習の実習生評価は、コース毎にSTOT(Student Teaching Observation Tool)を使った評価を受ける。これにより、州・国・および内容分野専門協会の基準(Standards)に沿った指導がなされているかを測る。STOTは、メンター教師と大学のスーパーバイザーによって、春学期中に2回に分けて実施される。

その実習生評価結果はインターン学生にフィードバックされ、有意義な指導を受ける材料となる。インストラクター・スーパーバイザー・メンター教師は、それぞれ実習生の専門的能力について各学期に評価フォーマットを使って評価する。現場任せではなくメンターや大学の科目担当者・大学教員など、より複眼的な視点から実習生が評価されることにも特徴がある。

## (2) 「実習現場交換」・「へき地実習」の運用方法と地域・へき地校への定着促進

次の2つの実習科目は、UAFの教員養成カリキュラムの独自の特徴を有する実習として位置付けられる科目である。

1つ目は、「実習現場交換(Trade Places)」という実習科目である。この実習科目は、70時間以上の別のフィールドワーク時間が課せられている。すべてのインターン学生は実習期間中に、2週間は別の教室で過ごす。学校内のインターン学生(※大学アレンジによるインターン学生)は、同学校か別の学校のインターン学生とクラスを「交換」して、2週間、同学校の異学年か、異学校の異学年に移る。自己開拓等によるインターン学生は、同じ学校の異なる配属学年で2週間過ごすことになる。インターン学生は、実習現場交換中に2つの学年の授業を計画し、指導することが求められる。

また実習生配属校については、都市部(Fairbanks, Anchorage, Mat-Su, Juneau, Kenai)やへき地コミュニティに配属されるので、都市とへき地などの異なる学校状況に応じた教育実習ができる。実習現場交換によって、インターン学生は彼らが配属された環境とは異なるもう一つの学校や学年に配属され、自分の経験を多様化し幅を広げる。

へき地のコミュニティでのインターン学生は、同学校内で異なる学年を担当する。市街地の学校のインターン学生は、別の学校に移動する。インターン学生の実習評価方法は、2つの異なる授業を実施し、それらの経験の省察レポートで評価する。受入教室のメンター教師と大学のスーパーバイザーも、インターン学生に対して教室運営に関する評価をフィードバックする。

2つ目は、「へき地実習」という実習科目である。このコースは、40時間以上のへき地校のフィールドワーク時間が課せられている。この「へき地実習」では、関心があるインターン学生が1週間の「へき地実習(Rural Practicum)」のために遠隔地のアラスカ先住民コミュニティで実習す

る。配属先は、北西アラスカの中でも遠隔地に位置するアラスカ先住民族コミュニティにある、へき地校で実践する。学校児童の大半はアラスカ先住民族（Inupiaq, Siberian Yup'ik, Central Yup'ik）である。

へき地校のインターン学生は、学校か教師の住宅に宿泊し、学校やコミュニティの活動に積極的に参加する。インターン学生は実習期間中、その地域に根ざした授業を計画し実践することが目標とされる。評価方法は、1回の授業を計画実施し、それらの経験について簡単な省察レポートの提出が課せられる。特に「へき地実習」では、実習先の地域が先住民族コミュニティであり、先住民族の子供たちであることから、自ずと先住民族理解につながるカリキュラム構成とへき地教育理解の教育実習になることに特徴がある。

## 5. UAFのへき地教育カリキュラムの先進的取り組みとへき地の教員養成

UAFでは既述のように、教員養成カリキュラムの中でも、へき地地域とへき地校に根ざすカリキュラムを積極的に推進している。このUAFへき地教育カリキュラムは、国際的にも、独自の教員養成カリキュラムであり、先駆的な内容を有している。

またアラスカ州の地理的広域性・へき地性の中で、UAFは1963年から衛星パラボラアンテナによる遠隔教育システムを活用した教員養成を行ってきた。本節では改めてUAFにおけるへき地教育を推進するカリキュラムの独自性と先進性を、次の3つの観点からとらえておきたい。

### (1) アラスカ大学へき地教育実習の継続的発展と遠隔指導方法の先進性

在籍する学生は前述の、必ずしも大学キャンパスが所在する市街地地域に居住して学習できる環境ではない。そのためUAFは、学生が遠隔地に居住したままでも履修計画を立てて遠隔双方向の授業受講や教員・アドバイザーによる現地巡回指導・大学からのオンラインビデオ等による講義・個別アドバイス指導を受ける教育システムを構築していた。

通常の一つ一つの講義自体も、理論的な学びと実践的な学びが往還する科目内容に特徴があり、UAFの場合は実習校任せではなく、長い実習期間の中で各教科指導法による授業計画や実践指導が毎週オンライン授業で組み込まれ、より実践的であるカリキュラムが特徴的であった。

学部4年次には、インターンシップイヤーとして1年間（10ヶ月間）の教育実習が課されており、インターン学生は教育実習現場（公立学校）において教科指導法の類である各教科の実践的なカリキュラムも、実習期間中に併せて履修している。その指導場面としては、大学に登校しての講義や遠隔双方向での受講など、立地状況に応じて臨機応変な指導方法が保障されていることが特徴的である。

### (2) へき地教育理解につながるカリキュラムと実習体系

UAFで取り込まれている教育実習の大きな特色は、「実習現場交換」実習と「へき地実習」の2つである。

1つ目の「実習現場交換」の実習は、1年間の実習を一つの学校で完結するのではなく、実習期間中にあえて異なる学校の実習に2週間取組むシステムを採用していることが特徴的である。その実習内容の大部分は、市街地校とへき地校の二つである。実習現場を交換することによって、インターン学生は彼らが配属された環境とは異なるへき地・小規模の学校や異なる学年に配属される。この実習現場交換により、自分の経験を多様化し幅を広げることを目標に置いている。

2つ目の「へき地実習」は、1999年以来実施されているUAFの先駆的な実習である。この実習は、へき地校に関心のあるインターン学生に1週間の「へき地実習」のために、UAFは、遠隔地のアラスカ先住民族コミュニティの学校で実習する機会を提供してきた。1週間のへき地実習の間、インターン学生はへき地コミュニティへ空路で移動し、学校か教師の住宅に宿泊し、学校やコミュニティの地域学校教育活動に積極的に参加する。空路を利用して現地の実習校へ移動することは、極めて僻遠性が高いことを意味する。へき地実習の間、インターン学生にはそのような環境を活かしながら、地域に根ざした授業を計画し実践する機会を提供している。

2つの典型的な実習に見られるように、学部4年間を通じたUAF教育実習の特徴は、へき地教育の理論と実践の往還のカリキュラムを構成している。へき地校を含めて実習校の実践現場を交換するシステムがあり、またより僻遠性が高く先住民族コミュニティの中にあるへき地校での実習を提供するシステムを運用している。これらのへき地を含めた多様な経験は、将来的に、アラスカ州のへき地校で勤める場合に有用な経験であり、地域に根ざした授業づくりや、先住民族が暮らす文化・地域性を踏まえた教材など、教師として地域社会を理解する取り組みと資質を体験的に会得する学修の場が提供されていることを意味している。

### (3) アラスカスタンダードを踏まえた先住民族理解科目とへき地の教員養成

アラスカスタンダードについては、これまでの先行研究の到達点でも触れられてきたが、1999年に作成された“Guideline for Preparing Culturally Responsive Teachers for Alaska's Schools”の冊子は、刊行以来改訂されずに2025年現在も踏襲されている。

全米各州の教員免許取得者がアラスカ州で勤務する際に教師に課される履修科目としては、Alaska Studies（3単位）およびMulticultural EducationもしくはCross-Cultural Communications（3単位）が現在でも必須科目として位置付けられている（注11）（注12）（注13）。2025年現在、上記の2科目の履修義務についてはアラスカ州外出身者の教員採用要件としては当面大きく変更することはなく、

これらのコースの履修は最低条件として求められ続けるとされている。そのためAlaska Studies、Multicultural Education/Cross-Cultural Communicationsの科目はいずれも、アラスカ州内の5大学・キャンパスにおいて各々計50を超える関連したコース(科目)が開講されている。

さらに、UAFで開講されている共生社会・人権教育に関する科目は、教育学部だけではなく先住民族文化学部など、他学部からもより専門的な内容の科目が提供されている。前述した「へき地教育のより深い理解につながる実習を含むフィールド経験科目」(表2)の履修科目にもアラスカの歴史や先住民族文化、先住民族コミュニティ、といった地域と先住民族の芸術に根ざした教育の重要性など、様々な学問分野の視点から受講者の学年進行に応じた理論と実践の往還カリキュラムが構成されていた。

#### (4) へき地教育理解・地域理解を踏まえたUAFの教員養成

以上のように本稿では、UAFの教員養成プログラムの全体構造をとらえつつ、『University of Alaska Fairbanks 2025-2026 Academic Catalog』の初等教育学士並びに初等教育免許に係るカリキュラムの枠組みからUAFの地域に根ざしたカリキュラムの特徴をとらえた。そのカリキュラム構造の特徴は、全米の中でも特に辺境地にあるアラスカ州の先住民族理解やへき地教育理解を推進するカリキュラムであり、教師教育全体への汎化をも目指すプログラムであることが明らかになった。

事例として取りあげたアラスカ大学フェアバンクス校のへき地地域に根ざす教員養成プログラムは、国際的に見ても、先駆的な取り組みであると言える。人口減少社会が進む日本にとって、へき地・小規模校教育に携わる教師教育の質を高める取り組みに対しても示唆を与える実践内容を有している。

実際の実習現場での効果をとらえるための、インターン学生(実習生)・メンター教師・大学アドバイザー等の関係者への聴き取りを踏まえた論考は別稿に委ねたい。

#### 〈注記〉

- (注1) Barnhardt, Raymond. (2015) *Cultivating education for cultural sustainability in Alaska native communities*. Fairbanks, AK: Alaska Native Knowledge Network.
- (注2) ジョシュア・ウォーレン著「縮小する教師の賃金優位性」『アラスカ経済トレンド誌』2023年10月号.
- (注3) 牛渡淳・牛渡亮『教師教育におけるスタンダード政策の再検討－社会的公正、多様性、自主性の視点から－』東信堂, 2022年.
- (注4) 玉井康之・川前あゆみ「アラスカの多文化理解教育の施策と学校・地域における共生社会実現のための教育」『コミュニティの創造と国際教育〈日本国際教育学会創立30周年記念論集〉』学会創立

30周年記念論集編集委員会編, 2021年.

- (注5) 川前あゆみ・玉井康之・二宮信一編『アラスカと北海道のへき地教育』北樹出版, 2016年.
- (注6) 川前・小野「日本から見たアラスカ大学のへき地教員養成の変遷と先駆性」『へき地教育研究』第78号, 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター, 2024年.
- (注7) 小野豪大「米国アラスカ州の教員免許制度の特徴と地域に根ざす教師教育の先進性」『へき地教育研究』第79号, 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター, 2025年.
- (注8) 玉井康之「アラスカ大学フェアバンクス校における教職志望者拡大とへき地定着を目指すアドミッションポリシー」『へき地教育研究』第79号, 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター, 2025年.
- (注9) 『University of Alaska Fairbanks 2025-2026 Academic Catalog』(2025.8.23最終参照)  
<https://catalog.uaf.edu/calendar/>
- (注10) 中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について(答申)」基礎資料「2. (9) 諸外国における教員養成・免許制度」文部科学省初等中等教育局教職員課  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337068.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337068.htm) (2025.9.15最終閲覧)
- (注11) Alaska Studies :  
<https://education.alaska.gov/teachercertification/alaska-studies> (2025.9.15最終閲覧)
- (注12) Multicultural Education/Cross-Cultural Communications :  
<https://education.alaska.gov/teachercertification/culture> (2025.9.15最終閲覧)
- (注13) 州教育局の策定する Alaska Content Standards (<https://education.alaska.gov/akstandards/standards/ContentStandards.pdf>) の中に併記される形で Cultural Standards も明記された (2025.9.15最終閲覧)

#### 〈引用参考文献〉

- ・『University of Alaska Fairbanks 2025-2026 Academic Catalog』(2025.8.23最終参照) <https://catalog.uaf.edu/calendar/>
- ・川前・玉井・二宮編『アラスカと北海道のへき地教育』北樹出版, 2016年.
- ・玉井・川前「アラスカの多文化理解教育の施策と学校・地域における共生社会実現のための教育」『コミュニティの創造と国際教育〈日本国際教育学会創立30周年記念論集〉』学会創立30周年記念論集編集委員会編, 2021年.

- ・牛渡淳・牛渡亮『教師教育におけるスタンダード政策の再検討－社会的公正、多様性、自主性の視点から－』東信堂, 2022年.
- ・川前・小野「日本から見たアラスカ大学のへき地教員養成の変遷と先駆性」『へき地教育研究』第78号, 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター, 2024年.
- ・小野豪大「米国アラスカ州の教員免許制度の特徴と地域に根ざす教師教育の先進性」『へき地教育研究』第79号, 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター, 2025年.
- ・玉井康之「アラスカ大学フェアバンクス校における教職志望者拡大とへき地定着を目指すアドミッションポリシー」『へき地教育研究』第79号, 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター, 2025年.
- ・中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について(答申)」基礎資料「2. (9) 諸外国における教員養成・免許制度」文部科学省初等中等教育局教職員課[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337068.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1337068.htm) (2025.9.15最終閲覧)
- ・ジョシユア・ウォーレン著「縮小する教師の賃金優位性」『アラスカ経済トレンド誌』2023年10月号.
- ・高野孝子編『PBE 地域に根ざした教育－持続可能な社会づくりへの試み－』海象社, 2014年.
- ・「Alaska Studies」:  
<https://education.alaska.gov/teachercertification/alaska-studies> (2025.9.15最終閲覧)
- ・「Multicultural Education/Cross-Cultural Communications」:  
<https://education.alaska.gov/teachercertification/culture> (2025.9.15最終閲覧)
- ・州教育局策定「Alaska Content Standards」(<https://education.alaska.gov/akstandards/standards/ContentStandards.pdf>) の中に併記される形で「Cultural Standards」も明記された (2025.9.15最終閲覧)。

#### 【付記】

本稿は、科学研究費助成事業（基盤研究（C）課題番号22K02275）による研究成果の一部である。